



# 「要援護者台帳」を作成 一暮らし老人ら対象に

八番町一区  
自主防災委



活動事例を報告する自主防災委の役員

防犯と防災の2本柱で、住民の安心・安全に取り組んでいる桔梗が丘八番町一区の防災組織、自主防災委員会(通称、ほつと支え愛たい)は、昨年11月1日に組織立ち上げの経緯や活動事例についての説明会を開いた。まちづくり委員会の役員や区長ら15人が参加、東海・東南海などの大地震が予測されるとあって「いざ」という緊急時に何ができるか。特に一人暮らしのお年寄りを対象にした「要援護者台帳」の必要性などを強調した。

同委員会は、震度5強を想定した地震が発生した際に「自分の命や家は自分で守る」を前提に、住民被害を最小限に食い止めることが、住民の行うべきことを明確にする——ことなどを目的に計画。2006年6月に検討会メンバーを募集し、防災計画案・委員会規約・組織案を検討、同12月の組長会議で規約を承認。昨年4月に正式スタートした。

一年の計は元旦にありますね。「その年の計画は、元日の朝にしっかりと立ておけばうまく運ばれる」という、何事も早めに計画することが大切だと言ふことです。2009年をステキな年にするため、いろいろ考えてみませんか。夢や目標を持ち、それを楽しみつつ生きることができます。夢は実現しないことも多いけれど、目標はすぐに立てられます。例えば①笑顔を忘れない②毎日「ありがとう」を言葉にする③今日できることを明日に始める④体を大切にする⑤今年こそ運動を延ばさない⑥誰とでもあいさつをする……何かできそ

うな気がしませんか。そこで、「一日の終わりに自分を振り返つてみて、でございましょう。

この「要援護者台帳」は、難な人が地域住民に「援助の手」を借りようというシステム。希望する場合は委員会への申し出が原則(手上げ方式)となつておらず、これまでに4人が登録されている。

説明会後、委員会側は「専門家のアドバイスや意見は活動内容に反映している。大地震対策は差し迫つての大課題であり、各自治会に自主防災の活動が広がることが大切だ。そのため今回的事例紹介が参考になればと願つていて」と述べていた。

## 楽しく健康チェック

「食べ物bingo」で盛り上がる



高齢度をチェックする人たち

正午からは公民館で「健康まつり」。講堂や会議室は小波田川に沿って県道を経由し、スタートの南公民館まで健脚ぶりを見せていた。

田神社跡へ。帰りは正午からは公民館まで健脚ぶりを見せていた。

午後からは公民館で「健康まつり」。講堂や会議室は小波田川に沿って県道を経由し、スタートの南公民館まで健脚ぶりを見せていた。

正午からは公民館まで健脚ぶりを見せていた。

午後からは公民館で「健康まつり」。講堂や会議室は小波田川に沿って